

おしゃべり通信

No. 250 R2. 9. 15 発行 如春会 浦田医院



夏休み短縮が及ぼす影響



～子どもの「有休」奪った自覚ありますか？～

今年の夏休みは、全国 95%の自治体で小中学校の夏休みが例年より短縮されました。熊本県内では最短は9日間、玉名市においては 14 日間と短い夏休みでした。なぜ、夏休みを大幅短縮したかと言えば、春の臨時休校で失われた「授業時間の確保」のためです。休校中に家庭学習等で多少補えたとしても、1年間の学習内容を残りの授業日だけでこなすのは難しいでしょう。家庭学習では、やってくるかどうか児童生徒によってバラツキが大きく、授業日ほどの量は自学自習主体ではこなせないからです。みなさんは小中学校の夏休み短縮の決定について賛成、反対、どう思いましたか？



■学校教育の目標とは？

「臨時休校で遅れた授業時間を確保するために夏休みを短縮する決定」について疑問がわきませんでしたか？そもそも、学校教育の目指すものはなんでしょう？予定していた1年間の内容すべてを、とにかく授業するのが、もっとも大切な目的でしょうか？一定の授業時間を確保するというのは、教育上の重要な目的・目標を達成するための手段にすぎないのではないのでしょうか？夏休みの短縮は、手段が目的化しているのではないのでしょうか？

子どもたちの学びは、なにも教室だけではないし、教師からだけでもありません。学校教育の目標のひとつに「子どもたちの自主、自律を育てる」とありますが、自律的な学習者を育てるという趣旨に立つならば、猛暑のなか登校させて、あるいは夏休みを楽しみにしていた子ども多いのに、高い学習意欲をキ-

プして勉強できる子たちがどのくらいいるのでしょうか。「うちの自治体では、授業日数をたくさんこなしています。学力向上に熱心に取り組んでいます」という大人側の都合、パフォーマンスに終わり、肝心の学習効果が薄いものになったとしたら、それは、子どものためにはなりません。

■「休みは奪われるもの」？

また、夏休み短縮の決定には、「過労の視点が足りていない」という指摘もあります。労働者でいうと、有休が削られたことと同じ状況です。これでは、過労やオーバーワーク、また、「休みは簡単に奪われてしまう」など休むことへの価値下げを子どもに覚えさせることになります。夏休み短縮については「短い夏休みでも頑張るためにはどうしたらいいか」ではなく、「休みが少ないのは異常なんだ」「これっておかしいよね」と大人も一緒に気づいて、子どもたちに伝え、現実を捉えなおすことが必要です。子どもには「自分たちは守られるべき存在だ」ということを認識させましょう。子どもたちにはブラック企業で働きながら頑張れるスキルなんていません。ブラックなものはブラックなので、「どうやって自分を守ろうか考えよう」という考え方です。

■「休むことは悪いことではない」ことを伝えましょう

子どもたちには「周囲からの期待に100%答えることが健康に有害かもしれない。自分のつらさを看過しないように」伝えましょう。つらいのには事情があるはず。つらいと感じることを自分の個人的な強さや弱さにしてはいけません。新学期が始まって体調不良を訴えている子もいるかもしれません。子どもの「休みたい」に対し、「休むことへの罪悪感」を軽減できるような言葉かけを心がけたいものです。



参考：

- ・夏休みゼロ、大幅短縮の大問題—本当に子どものためを考えてのことか？ 妹尾昌俊
- ・子どもの「有休」奪った自覚ありますか？夏休み短縮、精神科医が恐れる異常事態「休むことへの罪悪感」 Withnews 2020年8月24日

文責：金柿

監修：浦田章子 M.D.



～これからの季節に多い子どもの感染症～

〈 感染性胃腸炎(ノロウイルス) 〉



ウイルス性の胃腸炎で、大人から子どもまで感染し、家族内感染も多くみられます。症状は、嘔吐、下痢、腹痛、発熱ですが、個人差があります。潜伏期間は1～3日で、下痢の期間は3～8日です。便を介して経口的に感染するため、予防にはトイレやおむつ交換後の手洗いが重要です。

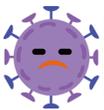


〈 溶連菌感染症 〉

咽頭炎、扁桃炎を起こす細菌感染症で、飛沫・経口感染します。潜伏期間は2～5日で、高熱や激しい咽頭痛で発症し、24時間以内に細かい発疹が出現することがあります。後に、重篤な合併症を引き起こすことがあり、早期に診断し治療を行う必要があります。

〈 インフルエンザ 〉

突然の高熱、悪寒、関節痛、倦怠感などの全身症状が強く、咳、鼻汁などの気道症状も持続します。潜伏期間は1～2日で、直接接触や空気感染で伝染します。



インフルエンザ予防接種が始まります
早めの接種をおすすめします！



今年も10月1日より、季節性インフルエンザの予防接種が始まります。インフルエンザワクチンを接種してから、効果を発揮するまでに約2週間かかると言われています。例年、インフルエンザの流行期は12月～3月までとなっていますので、11月中旬までには予防接種を受けましょう。また、乳幼児のいるご家庭(特に生後6か月未満のお子さんがいるご家庭)では、周りの方の接種をお勧めします。

13歳未満では2回の接種が必要です。
10月になったら早めに接種を終わらせましょう。

